

福祉サービス第三者評価結果報告書（2021 年度）

2022 年 3 月 28 日

社会福祉法人京都市社会福祉協議会
吉田児童館 館長 殿

〒150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 日本薬学会ビル 7F
評価機関名 一般財団法人 児童健全育成推進財団
(東京都福祉サービス評価第三者評価機関/機構 12-215)
電話番号 03-3486-5141
代表者氏名 理事長 鈴木 一光



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

| 評価者氏名 | 評価者氏名 | | 所属 |
|-----------|---------------------------------|---------------------------------------|--|
| | ① | 渡部 博昭 | 児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1201036 |
| | ② | 野澤 秀之 | 児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1801073 |
| 福祉サービス種別 | 児童館 | | |
| 評価対象施設名称 | 京都市吉田児童館 | | |
| 施設連絡先 | 所在地 | 606 - 8306 京都府京都市左京区吉田中阿達町 39 - 15 | |
| | 電話番号 | 075-761-3079 | |
| 施設代表者氏名 | 館長 石川 勝也 | | |
| 契約日 | 2021 年 1 月 20 日 | | |
| 自己評価票回答期間 | 2021 年 5 月 28 日～2021 年 6 月 30 日 | | 館長・事務局回答項目 |
| 職員調査票回答期間 | 2021 年 8 月 23 日～2021 年 9 月 6 日 | | 職員回答項目 |
| 訪問調査日 | 2021 年 10 月 25 日 | | |

京都市吉田児童館評価結果

I. リーダーシップと意思決定

| | | |
|--|--|---|
| 1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている | | |
| 1 事業所が目指していること（理念、基本方針）を明確化・周知している | | |
| 1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している | | ○ |
| 2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている | | ○ |
| 3. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている | | ○ |
| 2 経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている | | |
| 1. 経営層は、自らの役割と責任を表明し、職員に伝えている | | ○ |
| 2. 経営層は、経営の改善、児童館活動の質の向上などに向けて取り組むべき方向性を提示し、指導力を発揮している | | ○ |
| 【講評】 | | |
| 法人は基本構想と児童館担当部の事業計画を明示して、実現に向けた取り組みを行っています | | |
| ① 法人は「京都市の社協基本構想」を掲げ、住民主体の地域福祉活動の発展と地域共生社会の実現を唱っています。このことを法人のホームページ、広報誌、パンフレット、などの媒体により広く公表し、利用者への周知を図っています。児童館職員に対しては、その理解を深めるための研修を行い、目指す姿の実現のために自館の業務の中で何をするのかについて具体例を挙げながら話し合う機会を持ちました。児童館事業部としての事業計画を定めています。ホームページ等で公表するほか、各児童館の事業計画立案の基礎になっています。 | | |
| ② 経営層は、業務権限や責任所在に関する「専決規程」を定めて自らの役割と責任の所在を明示しています。 | | |
| ③ 同じ行政区の法人所管児童館の館長によるグループ制を導入しています。各グループに部長を配置し、グループの統括、グループ館長会をスムーズに行う運用としています。このことにより、法人の意向や必要な事務連絡、各館の情報交換が円滑に行われるようになっています。 | | |

Ⅱ. 経営における社会的責任

| | | |
|---|--|---|
| 1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる | | |
| 1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している | | |
| 1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している | | ○ |
| 2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる | | ○ |
| 3. 事業所のコンプライアンスや社会的責任を明確にして、職員保護や法令遵守に対する取り組みをおこなっている | | ○ |
| 2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている | | |
| 1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるよう取り組んでいる | | ○ |
| 2. 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法（事業者便り・会報など）で地域社会に事業所に関する情報を開示している | | ○ |
| 2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている | | |
| 1 事業所の機能や福祉の専門性を生かした取り組みがある | | |
| 1. 利用者と地域との交流を広げるための地域への働きかけを行っている | | ○ |
| 2. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など） | | ○ |
| 3. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性を生かした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている | | ○ |
| 2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している | | |
| 1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している | | ○ |
| 2. ボランティアの受け入れ体制を整備している（担当者の配置、手引き書の作成など） | | ○ |
| 3 地域の関係機関との連携を図っている | | |
| 1. 事業所として必要な関係機関との連携が、適切に行われている | | ○ |
| 2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている | | ○ |

【講評】

地域の福祉を担う法人として、児童館も社会的責任を果たす事業に取り組んでいます

- ① 職員の心得やサービス姿勢を「信条」に明示しています。「職場倫理マニュアル」の策定、「職場倫理チェックシート」を作成し、各館が活用することで倫理意識の維持・向上に努めています。管理職対象のハラスメント研修、職員全体に「障害者差別解消法」研修を行う等、職員保護や法令遵守の推進を図っています。例えばハラスメント対応については、職員の職種に関わらず、採用時に法人の「ハラスメント防止に関する要綱」を明示して職員に周知しています。
- ② 「事業報告書」「情報公開規程」「第三者評価受審結果」等必要な情報開示を行っています。また、所管児童館共通で実施する「利用者共通アンケート」の結果を「児童館だより」等に掲載し公表しています。
- ③ 法人は地域公益活動を最重要事項の一つとしています。各児童館では、他施設との交流、地域の方々にも参画してもらう「児童館まつり」の開催、児童館運営協力会を組織し実施するなど、地域への働きかけを積極的に行う姿勢です。
- ④ 各館におけるボランティアの積極的な受け入れも進めています。その際の「ボランティアの手引き」もひな形を示しています。倫理面、個人情報保護等については、準職員やボランティアにも職員同様に適用することを伝えています。
- ⑤ 京都市地域子育て支援ステーション事業の基幹ステーションとして、地域の子育てに関わる関係機関や団体の中核として、子どもに関わる情報交換や会議、研修、子育て家庭に向けた事業を実施しています。

Ⅲ. 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

| | | |
|--|--|---|
| 1 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む） | | |
| 1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている | | ○ |
| 2. 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している | | ○ |
| 3. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対して組織的に解決に取り組んでいる | | ○ |
| 2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる | | |
| 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる | | ○ |
| 2. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる | | ○ |
| 3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している | | |
| 1. 地域の福祉ニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる | | ○ |
| 2. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる | | ○ |

【講評】

苦情解決制度や利用者アンケートなどの方法でニーズや要望を把握し、サービス向上に繋げています

- ① 「苦情解決規則」を整備しています。これに基づいて第三者委員会を設置するとともに、児童館には苦情申出窓口を設置し、利用者の意見の受け止めに努めています。苦情解決制度の案内は館内に掲示して利用者への周知を図っています。日常的に職員が意見や要望を聞いたときは、施設長に報告して速やかな解決に努め、必要に応じてと法人と共有して対応を図ります。
- ② 毎年「利用者共通アンケート」を実施して、利用者の意向を児童館の事業計画や運営改善に活かしています。アンケートは法人本部で集約し、質問内容は定期的に刷新したり、表現の変更を行ったりしています。また、アンケート結果を児童館に掲示したり、児童館だよりに掲載したりして利用者や地域住民に公表し、透明性の確保とサービス内容の向上に努めています。
- ③ 放課後児童クラブでは、保護者懇談会や個人面談を実施して個別的な要望や意向を把握しています。また、日常の会話や連絡帳を通して児童館と家庭の共通認識が図られるように努めています。子どもの意見の尊重や子どもの主体的な活動を促す取組みとして、児童館ごとに子ども会議等を実施したり、意見箱を設置したりしています。子どもが意見を出し合って、活動の内容を決めたり、購入する物を決めたりしています。
- ④ 他団体が委託を受けている「中三学習会」や地域の実行委員会が開設している「子ども食堂」に施設提供や職員派遣を行い、地域への公益的役割を果たすことができています。

IV. 計画の策定と着実な実行

| | | |
|---|--|---|
| 1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる | | |
| 1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している | | |
| 1. 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている | | ○ |
| 2. 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている | | ○ |
| 3. 単年度の計画は、担当者・スケジュールの設定などを行い、計画的に取り組んでいる | | ○ |
| 2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している | | |
| 1. 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている | | ○ |
| 2. 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しについて職員が理解している | | ○ |
| 3. 事業計画は、サービスの現状（利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など）を踏まえて策定している | | ○ |
| 4. 事業計画は、利用者に周知され、理解を促している | | ○ |
| 3 着実な計画の実行に取り組んでいる | | |
| 1. 計画推進の方法（体制、職員の役割や活動内容など）を明示している | | ○ |
| 2. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している | | ○ |
| 2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる | | |
| 1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる | | |
| 1. リスクマネジメント体制を構築し、事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの事例の収集と要因分析と対応策の検討・実施が行われている | | ○ |
| 2. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている | | ○ |
| 3. 子どもに施設・遊具の適切な利用方法を伝え、安全に遊べるようにしている | | ○ |
| 4. 子どものケガや病気の応急処置の方法について、研修や訓練に参加している | | ○ |
| 【講評】 | | |
| 社協基本構想を基礎にマニュアルや事業計画が策定され、計画的な運営が行われています | | |
| <p>① 「京都市の社協基本構想」で今後5年間の児童館の中期計画を示しており、自治体の方針や社会状況に照らして時宜に応じた変更などを検討するようになっていきます。各児童館の単年度の事業計画もこの中期計画を基準にして策定しています。各児童館では、年度末に児童館事業、放課後児童クラブ事業別に年間活動報告を作成して課題を明確にするとともに、次年度の計画策定時に生かしています。</p> <p>② 所管各館で運用している日誌システムは、共有データとして全職員が閲覧できるようになっており、事業計画の実施状況を把握、共有できる仕組みです。また、事業評価や見直しは事業計画の策定とセットで全職員が関わって行います。職員が意見を出し合い、共通の認識の上で、内容の充実や新しい取組みの計画が行われます。</p> <p>③ 法人独自に「事故防止マニュアル」「緊急時の対応に関するマニュアル」「感染症予防対策のためのマニュアル」等、各種危機管理のマニュアルを整備しています。また、定期的な避難・消火訓練や「ヒヤリハット」の報告等、具体的な利用者の安全対策を講じています。併せて、各館の立地条件にあった「防災マニュアル」を作成するなど、安全な児童館運営のための取組みが計画的に行われています。</p> <p>④ 所管各館で利用児童の特性に応じて、遊具の使用法や遊ぶ際の決まりなどを工夫しながら示して、安全に遊ぶことができる環境づくりに努めています。同時に、職員は子どもの主体性を損なうことがないように、子どものやりたいことを吸い上げ、できるだけ実現できるようにすることを念頭に、子どもの支援を行っています。</p> | | |

V. 職員と組織の能力向上

| | | |
|--|--|---|
| 1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる | | |
| 1 事業所にとって必要な人材構成にしている | | |
| 1. 事業所の人事制度に関する方針（期待する職員像、職員育成・評価の考え方）を明示している | | ○ |
| 2. 採用に対する明確な基準を設けている | | ○ |
| 2 職員の質の向上に取り組んでいる | | |
| 1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している | | ○ |
| 2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している | | ○ |
| 3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている | | ○ |
| 2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる | | |
| 1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる | | |
| 1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している | | ○ |
| 2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる | | ○ |
| 2 職員のやる気向上に取り組んでいる | | |
| 1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている | | ○ |
| 2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる | | ○ |
| 【講評】 採用・評価・研修受講の仕組みを整え、人材確保と育成を進めています | | |
| ① 職員採用は、透明性確保のために公募による採用試験を行っています。試験は筆記、小論文、実地試験などを行っており、基準が明確な評定表に基づいて可否判断がされる仕組みを確立しています。 ② 各館で定期的に館長による職員面談を行い、職員一人ひとりから職務への希望、課題、資質向上への意向などを聞き取り、人員配置や人材育成計画等の参考としています。 ③ 法人独自の人事考課制度とOJTの導入により、各館職員の資質・専門性の評価の明確化と効果性の向上を図っています。法人では考課者の資質が重要であることを館長に伝え、館長はその責任を果たすべく、職員ヒアリングに臨んでいます。また、この人事考課は児童館長への昇格に考慮されます。 ④ すべての職員に「報・連・相」を徹底するよう心がけています。 ⑤ 各館では職員一人ひとりの研修受講状況を管理するとともに、人材育成の課題や目標を立てています。これに加えて、職員自身の意向も加味し各館の資質向上を図っています。研修終了後はレポートの提出が義務付けられており、伝達研修により研修内容の全体化と定着化を進めています。また、新たな採用職員、1年目の職員や初異動の職員は、実務の中で学びを得てもらうため、OJT制度を導入してサポートしています。 | | |

VI. サービス提供のプロセス

1 サービス情報の提供

1 利用者や地域住民に対してサービスの情報を提供している

| | |
|--|---|
| 1. 利用者や地域住民が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している | ○ |
| 2. 利用者や地域住民の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている | ○ |
| 3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している | ○ |
| 4. 事業所の利用促進につながるように創意ある広報活動がおこなわれている | ○ |

【講評】

児童館活動の各種情報提供については、近隣小中学校や自治連合会等の協力を得つつ、利用者に届くよう積極的に行っています。

- ① 毎月の児童館ニュースはインターネットで配信するとともに、近隣小学校で全ての児童・教職員に配布し、周辺町内会で回覧板に挟み込んでもらっています。また、乳幼児活動については区の子育て情報誌にも情報掲載し、中学生を対象としたクラブ活動や卓球などの案内チラシは近隣の中学校に全校配布しています。利用者や地域住民が入手できる媒体で、きめ細かく情報提供を行っています。
- ② 児童館ニュースの小学生以上を対象とした表面は、漢字にルビを振るようになっています。また、町内会の回覧等に対応しやすくするために、A4サイズで作成しています。
- ③ 児童館フェスやキャンプ等のイベント、子育て支援事業等の情報は、地域の子育て支援ネットワークという顔の見える人脈を通じて、対象者に確実に情報提供しています。

2 サービスの実施

1 遊びの環境整備を行っている

| | |
|---|---|
| 1. 遊ぶ際に守るべき事項（きまり）が、利用者に理解できるように決められている | ○ |
| 2. 乳幼児から中高生までの子どもすべてが日常的に気軽に利用できる環境がある | ○ |
| 3. 子どもが自ら遊びを作り出したり、遊びを選択したりできるようにしている | ○ |
| 4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている | ○ |

【講評】

遊びの環境整備については、乳幼児親子や子どもたちの身になって、親しみやすく過ごしやすい場になるよう心掛けています。

- ① 遊ぶ際に守るべき事項（きまり）は利用者に理解できるように決められており、子どもにもわかりやすく表記するとともに、子どもの目線の高さを考慮して掲示しています。
- ② 乳幼児から中・高校生世代までの子どもすべてが日常的に気軽に利用できる環境を整えるために、乳幼児親子にランチタイムを利用して交流してもらったり、中・高校生世代が卓球をする際に職員が積極的に話しかけたりと、各世代のニーズを踏まえて意識的に取り組んでいます。
- ③ 子どもが自ら遊びを作り出したり、遊びを選択したりできるように、館内の場所の使い方や道具の準備、実施するプログラム等については子どもたちの意見を取り入れながら環境整備に努めています。

2 子どもの発達過程に応じた支援を行っている

| | |
|--|---|
| 1. 職員が、子どもの発達の一般的な特徴や発達過程について、研修などで学んでいる | ○ |
| 2. 子ども一人ひとりの発達特性を把握し、発達の個人差を踏まえて支援を行っている | ○ |
| 3. 子どもへの対応について、個々の事例に関する検討が職員間で行われている | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|--|---|------------------------------------|---|--|---|---|---|------------------------------|--|---|---|--------------------------------|---|
| | <p>【講評】 職員は子どもの発達の特徴や発達過程について理解しており、一人ひとりの心身の状態を把握しつつ、子どもが健やかに育まれるよう様々に配慮しています。</p> <p>① 基礎研修や京都市児童館活動指針を踏まえた館内研修を通じて、職員は全員子どもの発達の一般的な特徴や発達過程について学んでいます。</p> <p>② 多くの職員が個別援助技術に関する専門研修を終えており、子ども一人ひとりの発達特性を把握し、発達の個人差を踏まえた支援を行っています。</p> <p>③ 実際の事例をもとに、子どもへの対応について職員間で研修として話し合う時間を設け、職員が知識・理解を深められるようにしています。</p> | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | <p>乳幼児と保護者への対応を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している</td><td></td></tr> <tr> <td>6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる</td><td>○</td></tr> <tr> <td>7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 乳幼児親子が気軽に来館し、あたたかい雰囲気の中で自由に交流できる場となっています。虐待予防を心掛けており、今後、保護者の主体的な活動を目指しています。</p> <p>① 乳幼児クラブ（登録制）を実施していない日でも「あそびのひろば」として、乳幼児親子が気軽に利用し、自由に交流できるように場所を開放しています。クラブやひろばの後のランチタイムも開放し、乳幼児と保護者の交流の促進に努めています。</p> <p>② 乳幼児の保護者が子どもの発達上の課題について気軽に相談できるように、職員は日頃から開放的で親しみやすい雰囲気づくりを心掛けています。また、保護者の言動等の変化に注意を払い、民生児童委員と連携して情報交換するとともに、必要に応じて主管課や児童相談所に連絡するようにしています。</p> <p>③ 乳幼児クラブの活動では、保護者が自主的に動いているところも一部ありますが、内容の企画やプログラムの運営までは至っていない状況です。今後、地域の子育て環境づくりの意味でも、児童館としても保護者の意識を高めて主体的な活動が行われるよう働きかけていくことを考えています。</p> | 1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している | ○ | 2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している | ○ | 3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している | ○ | 4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている | ○ | 5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している | | 6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる | ○ | 7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している | ○ |
| 1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | <p>小学生への対応を行っている（核となる児童館活動）</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 放課後児童クラブと自由来館とが一緒に遊び育ちあえるように配慮しています。また、クラブや行事は学年が上がるにつれて主体的に協力して活動に取り組めるよう意識的に働きかけています。</p> <p>① 放課後児童クラブ登録児童と自由来館児童とが一緒に遊び育ちあえるように、職員は個別・集団援助技術を用いて個人や集団の成長に向けて働きかけています。</p> <p>② 安全・安心を大前提に、動的な遊びが思いっきりできる場と、静的な遊びが落ち着いてできる場を設け、子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるように環境を整えています。</p> | 1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている | ○ | 2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている | ○ | 3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている | ○ | 4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている | ○ | | | | | | |
| 1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている | ○ | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|---|---|
| | ③ 子どもが自発的・創造的に活動できるように職員としてはどのように働きかけたらいいのか、また、自主性・社会性を育てる行事やクラブ活動とはどのようなものなのか、職員間で常に話し合い、確認しつつ活動を進めています。 | |
| 5 | 中学生・高校生世代への対応を行っている | |
| | 1. 中・高校生世代も利用できるようになっている | ○ |
| | 2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある | ○ |
| | 3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある | ○ |
| | 4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている | ○ |
| | <p>【講評】</p> <p>中・高校生世代も、小学生の時に利用していた子どもたちを中心に日常的に利用できるようになっています。職員は意識的に関わり、相談対応等も行っています。</p> <p>① クラブや卓球等と活動は限定的ですが、小学生の時に児童館を利用していた中・高校生世代を中心に、日常的に利用できるようになっており、職員も意識的に話しかけるようにしています。</p> <p>② 職員は研修や自己研鑽を通じて思春期の発達特性について理解を深めており、年齢が若いということもあって、来館する中・高校生世代のお兄さん・お姉さんの親密な関わりをしています。</p> <p>③ 児童館としては広く開放しているつもりでも、これまでなじみのない中・高校生世代にとっては敷居の高さを感じることもあるかも知れません。広く地域に目を向け、利用が一部の児童だけににならないよう、利用者の枠を広げていく取組が求められます。</p> | |
| 6 | 子どもの権利を尊重した支援を行っている | |
| | 1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている | ○ |
| | 2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている | ○ |
| | 3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている | ○ |
| | 4. 子どもの年齢や発達の程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している | ○ |
| | 5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている | ○ |
| | <p>【講評】</p> <p>職員は子どもの権利擁護について十分に理解しており、職員のかかわりを通じて子ども自身も自らの権利について理解しています。</p> <p>① 子どもの権利擁護については子どもの権利条約をはじめ、児童館ガイドライン、京都市児童館活動指針、市社協児童館倫理マニュアル等が事務室に常備されており、それらを踏まえた児童館運営や支援について職員間で日常的に話し合いが持たれています。</p> <p>② 職員は常に子どもの最善の利益の保障を意識して子どもとかかわっています。子どもはそうした職員の姿を通じて自分の権利を感覚的に理解しています。</p> <p>③ 子どもの年齢や発達の程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重するようにしており、行事の際に実行委員会を設けるなど、運営や活動にも反映するようにしています。</p> | |
| 7 | 配慮を要する子ども・家庭への支援を行っている | |
| | 1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある | ○ |
| | 2. 障害の有無に関わらず子ども同士がお互いに協力できるような活動内容や環境に配慮している | ○ |
| | 3. 保護者の不適切な養育や、児童虐待の疑いのある子どもの情報を得たときは、組織として関係機関に連絡し、連携して対応を図っている | ○ |
| | 4. 子どもの活動の様子から必要があると判断した場合には、家庭と連絡を取ることにしている | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|---|---|---|---|--|---|-------------------------------------|---|-----------------------------------|---|-------------------------------------|---|--|---|------------------------------|---|
| | <p>【講評】 日頃から保護者が気軽に相談できるような雰囲気作りに努めています。また、配慮を要する子ども・家庭への支援を意識的に行っており、虐待等の事案が発生した場合は関係機関と連携して対応しています。</p> <p>① 保護者からの相談に対しては常に対応できる体制が整っており、いつでも気軽に相談できるような雰囲気作りに努めています。</p> <p>② 配慮を要する子どもについては職員間で状況を共有し、必要に応じて保護者とも懇談を行い、障害の有無にかかわらず子ども同士がお互いに協力できるような活動内容や環境に配慮しています。</p> <p>③ 保護者の不適切な養育や児童虐待の疑いのある子どもの情報を得たときは、直ちに児童相談所等市の施設に連絡するとともに、近隣の小学校や地域の民生児童委員と連携を取る等、組織として関係機関に連絡し、連携して対応にあたっています。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>8 地域の子どもの育成環境づくりを行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 子どもの育成に関係する地域の様々な組織・機関と連携しつつ、地域の健全育成環境作りに取り組んでいます。</p> <p>① 児童館の夏まつりから発展した区民夏まつりの取組に見られるように、児童館は長年にわたって地域のNPOや子育てサークル、ボランティアなどの住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進しています。</p> <p>② 地域全体で子どもを見守る「よしだみまもる隊」の取組や、警察と連携した乳幼児親子向けの「セーフティー教室」、小学生向けの「防犯教室」など、地域で子どもが安全に過ごせるような取組をしています。</p> <p>③ 民生委員協議会、社会福祉協議会、学区内保育園・幼稚園・小学校等とともに吉田子育て支援ネットワークを組織し、地域の現状や課題について検討するとともに、児童館運営の方向性についても助言してもらっています。</p> | 1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している | ○ | 2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている | ○ | 3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある | ○ | 4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている | ○ | 5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている | ○ | 6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている | ○ | 7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある | ○ | 8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している | ○ |
| 1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>9 子どもを含めたボランティアの育成と活動支援を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 子どもの活動にお手伝いやボランティア活動を取り入れ、健全育成活動の一環として実施している</td><td>—</td></tr> <tr> <td>2. 乳幼児の保護者の主体的な活動を支援しつつ、ボランティアとして育成している</td><td>—</td></tr> <tr> <td>3. 地域住民を受け入れ、ボランティアとして育成している</td><td>—</td></tr> </table> <p>【講評】 積極的に子どものボランティア体験や、保護者、地域住民のプログラムへの関わりなどを進めていくことが望まれます。</p> <p>① 放課後児童クラブを卒業した子どもの中には、中・高校生の間も児童館を利用し続け、大学生になって学校の友人を連れて児童館ボランティアとして活動してくれている子もいます。</p> <p>② 利用対象である子ども自身が児童館活動のお手伝いやボランティアを行うのが児童館の一つの特色ですが、そのような取組は見られませんでした。また、保護者の主体的な活動を支援し、ボランティアとして育成するような取組も今後の課題であるとのことでした。</p> <p>③ 地域住民の自発的な活動を促し、ボランティアとして育成するような取組を行うことは、地域の子どもの見守り育てる気風や環境をつくることに繋がっていくと思われます。今後、積極的な地域ボランティア育成の取組が望まれます。</p> | 1. 子どもの活動にお手伝いやボランティア活動を取り入れ、健全育成活動の一環として実施している | — | 2. 乳幼児の保護者の主体的な活動を支援しつつ、ボランティアとして育成している | — | 3. 地域住民を受け入れ、ボランティアとして育成している | — | | | | | | | | | | |
| 1. 子どもの活動にお手伝いやボランティア活動を取り入れ、健全育成活動の一環として実施している | — | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 乳幼児の保護者の主体的な活動を支援しつつ、ボランティアとして育成している | — | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 地域住民を受け入れ、ボランティアとして育成している | — | | | | | | | | | | | | | | | | |

3 放課後児童クラブの運営【放課後児童クラブ併設の場合のみ該当】

| | |
|---|---|
| 1 放課後児童クラブを児童館の持つ機能を生かして運営している | |
| 1. 放課後児童クラブは市町村の基準条例（最低基準）に基づいて行われている | ○ |
| 2. 放課後児童クラブに在籍する子どもと児童館に来館する子どもとが直接交流できるよう活動を工夫している | ○ |
| 3. 放課後児童クラブに在籍する子どもと地域の子どもや住民とが直接交流できる機会を設けている | ○ |
| 2 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている | |
| 1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している | ○ |
| 2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている | ○ |
| 3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している | ○ |
| 4. 放課後児童クラブの利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている | ○ |
| 3 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている | |
| 1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している | ○ |
| 2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている | ○ |
| 3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている | ○ |

【講評】

放課後児童クラブは児童館の特性を生かして運営されており、自由来館の子どもにも配慮しています。また、地域の子どもや住民と交流する機会も設けています。

- ① 放課後児童クラブは京都市の基準に基づいて適正に実施されており、自由遊びの時間は自由来館児童と分け隔てなく一緒に遊んでいます。毎年の行事である児童館フェスや、毎年参加する吉田区民夏まつりは、地域の子どもや住民と放課後児童クラブの在籍児童とが直接交流できる機会となっています。
- ② 放課後児童クラブ利用の開始にあたっては、毎年 3 月に新入会の保護者を対象に入会説明会を開催し、基本的ルールや重要事項等を保護者の状況に応じて説明しています。また、緊急時の病院受診のための委任状や、一斉配信のためのメールアドレスの取得など、必要事項を説明し同意を得るようにしています。
- ③ 放課後児童クラブ利用開始直後には、保護者による送迎をお願いして保護者と職員とが子どもの様子について直接情報交換できるようにする等、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っています。

4 特に配慮を要する子ども・家庭の個別状況に応じた対応と記録

| | |
|---|---|
| 1 特に配慮を要する子ども・家庭の情報収集、分析を行い、課題を理解した上で対応を図っている | |
| 1. 配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等を把握し記録している | ○ |
| 2. 配慮を要する子ども・家庭の支援について、関係機関と情報を共有し連携して対応している | ○ |
| 3. 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている | ○ |
| 4. 配慮を要する子ども・家庭の記録は、担当する職員すべてが共有し、活用している | ○ |

【講評】

特に配慮を要する子ども・家庭については、個別に状況を把握するとともに、職員同士学び合いつつ、共通理解を持って支援にあたっています。また、記録についてもしっかりと行い、支援のために活用しています。

- ① 配慮を要する子どもや保護者の生活状況等については保護者との個別面談を通じて丁寧に把握しており、職員間で共有し、全員が寄り添った支援を行えるよう努めています。
- ② 配慮を要する子ども・家庭の支援については、学校との定期的な連絡報告会にて情報を共有し、連携して対応しています。
- ③ 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員は各種研修会に積極的に参加して学び、理解を深めています。また、来館時の様子等について個別に記録をとり、全職員が目を通して共通理解を図っています。

5 プライバシーの保護等個人の尊厳、権利の尊重

1 子どものプライバシー保護を徹底している

- | | |
|--|---|
| 1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている | ○ |
| 2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている | ○ |

2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

- | | |
|---|---|
| 1. 日常活動の中で子ども一人ひとりを尊重している | ○ |
| 2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている | ○ |
| 3. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している | ○ |

【講評】

子どものプライバシー保護については十分配慮しています。また、職員は子どもの気持ちに十分寄り添い、子どもを傷つけてしまうことのないように、研修等を通じて理解を深めています。

- ① 子どものプライバシー保護については十分配慮しています。写真撮影及びお便りへの掲載については年度当初に保護者の同意を得ています。その他、メディアへの露出等、子どもに関する情報を外部とやり取りする必要がある場合には、その都度保護者の同意を得るようにしています。また、子どもの羞恥心への配慮が必要となる場合には、事務室など他の子どもがいない場所に対応するように心掛けています。
- ② 子どもから話を聞くときは、内容に配慮しながら子どもが落ち着いて話せるように子どもの気持ちに寄り添い、個別に丁寧に対応するよう心掛けています。
- ③ 子どもの気持ちを傷つけるようなことのないよう、児童館職場倫理研修を行うとともに、児童館職場倫理マニュアルに基づいてチェックシートを作成し、職員が相互に日常の言動等を振り返り確認できるようにしています。

6 事業所業務の標準化

1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

- | | |
|---|---|
| 1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供している児童館活動の標準的な実施方法を明確にして活動を提供している | ○ |
| 2. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している | ○ |
| 3. 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している | — |

2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

| | | |
|--|---|---|
| | 1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている | — |
| | 2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている | — |
| | 3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる | — |
| 3 | さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している | |
| | 1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている | ○ |
| | 2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している | ○ |
| | 3. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している | ○ |
| | 4. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている | ○ |
| 【講評】 | | |
| 児童館ガイドラインや京都市児童館活動指針に基づいて適正に活動しています。業務の一定水準を確保するための取組も充実しています。 | | |
| ① 職員はみな、児童館ガイドライン、京都市児童館活動指針、京都市社協児童館倫理マニュアルを一人一冊各自で保管しており、必要なときにはそれらを参照しつつ、適正に児童館活動を実施しています。 | | |
| ② 年間計画等、各種計画を立案する際は京都市児童館活動指針等に基づいて行っていますが、提供する標準的なサービスについて、児童館として改めて明文化したものはありません。 | | |
| ③ 業務の一定水準を確保するために、日々の昼礼、毎月の職員会議等で様々な取組を確認するとともに、職員は各種研修に積極的に参加し、学んだ知識・技術については職員全員で共有するようにしています。また、人事考課を取り入れて、年に2回、個別の面接を実施しています。 | | |

VII. 情報の保護・共有

| | | |
|---|--|---|
| 1 情報の保護・共有に取り組んでいる | | |
| 1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる | | |
| 1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権を設定している | | ○ |
| 2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している | | ○ |
| 2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している | | |
| 1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している | | ○ |
| 2. 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている | | ○ |
| 【講評】 情報の保管・管理は端末にアクセス権を設定するなど徹底して行っています | | |
| ① 個人情報が表示されている書類は、鍵のかかる場所に保管し、必要なときは適時、職員が確認をすることになっています。また、日誌類の記録はデータ化が行われ、子どもの情報をより系統的に記録し、職員も情報の検索が容易になっています。データは厳重に保管管理が図られています。 ② 個人情報の取り扱いについては、保護者に説明を行い、理解を深めています。また同意書を求めるなど、書面でも確認した上で保管して、その取り扱いを徹底しています。 ③ 実習生やボランティアには、活動に入る前に個人情報の取扱いや秘密保持について職員から説明して個人情報保護の徹底と子どもの人権の尊重を図るようにしています。 | | |

総評

■特に良い点

| | |
|-------|--|
| ポイント1 | 法人本部が全館共通のマニュアルを整備し、日誌のシステム化も進め各館の利便性を高めています。 |
| | <p>法人本部で共通マニュアルを整備し、サービス提供の標準化と各児童館で何かあった際に迷うことなく対応が図られる仕組みを構築しています。これにより、法人の運営館は原則としてどのような事項についても同じ対応ができるようになっていきます。職場倫理は規程整備、研修実施、各館でのチェックなどを徹底し、コンプライアンスや利用者の人権擁護を図っています。また、各館の設置地域の状況により一律のマニュアルで対応ができない場合には、各館の判断が可能な柔軟性もあります。</p> <p>各館職員の事務効率化を図るために日誌などの記録の電子化も行いました。キーワードによる日誌内の検索・抽出ができ、個別記録の時系列化が容易になりました。今後も来館児童に十分に対応できる時間をつくるために、事務作業を極力効率化し、働きやすい環境とすることを目指しています。</p> |
| ポイント2 | 発達心理や個別・集団援助技術など、専門性に裏打ちされた職員の連携により、子どもたちは日々様々な活動を通じて育ちあっています。 |
| | 児童館ガイドラインや京都市児童館活動指針に基づいて適正に運営されています。職員は子どもの発達心理や個別・集団援助技術に精通しており、相互の連携も緊密に取られています。専門性に裏打ちされた職員のあたたかい眼差しの中で、子どもたちは様々な活動（伝承遊び、運動あそび、工作、各種行事の実行委員会等）を通じて日々育ちあっています。 |
| ポイント3 | 乳幼児親子があたたかい雰囲気の中で自由に交流できる場となっています。児童相談所等とも連携するとともに、保護者の主体的な活動に向けて取り組もうとしています。 |
| | 子育てひろばやランチタイムの開放により、乳幼児親子が気軽に来館し、あたたかい雰囲気の中で自由に交流できる場となっています。職員は虐待予防等の福祉的観点から乳幼児親子の様子に注意を払い、必要に応じて児童相談所等に連絡するようにしています。児童館としては今後、保護者の意識を高めて、主体的な活動が行われるよう働きかけていくことを考えています。 |

■改善が望まれる点

| | |
|-------|--|
| ポイント1 | 中・高校生世代の居場所として、利用者のさらなる広がりができるよう取組みの発展が期待されます。 |
| | 小学生時代に児童館でクラブ活動を楽しんでいた中学生が、小学校卒業後も活動したいとの要望から中高生世代のクラブ活動が発足しています。このような子どもたち以外にも、ふらっと立ち寄り、何もしないがほっとできる居場所、職員や友人とおしゃべりを楽しみたい子どもなど、様々なニーズが潜在的にあると思われます。彼らのニーズを捉えて参加しやすいプログラムを検討し、参加をきっかけとして児童館に足を向けてもらえるようにしたり、この世代の興味を引く広報活動などでアプローチしたりするなど、さらなる広がりができるための取組みの発展が期待されます。 |

| | |
|-------|--|
| ポイント2 | <p>児童館が、子どもや保護者、地域住民の主体的な活動の場であると発想していくことで、もう一段階、活動の質が高まると思われます。</p> |
| | <p>過去の利用者が学生ボランティアとして活動していますが、子どもや保護者、地域住民等を児童館のボランティアとして育成し支援するような取組は現時点ではないようでした。子どもや保護者を単なる利用者（＝お客さん）と捉えるのではなく、児童館は子どもや保護者、地域住民の主体的な活動の場であると発想していくことで、もう一段階、活動の質が高まると思われます。</p> |